

23 年度 医学部定員増 26 大学が 77 人の増員を申請！ 4 年連続の増員で、入学定員は 8,923 人の過去最多に！

旺文社 教育情報センター 22 年 12 月 8 日

文部科学省はこの程、平成 23(2011)年度における医学部医学科(以下、医学部)の入学定員(編入学を含む。以下、定員)の増加につき、申請のあった大学を発表した。

4 年連続の定員増となる今回は、過去 3 回と比べて小幅な増員に留まり、26 大学から 77 人増の申請が出されている。医学部を設置している 79 大学の定員の合計は、8,923 人の過去最多となる見通し。各大学からの申請は、12 月 17 日に答申のうえ、月内に正式に認可される予定だ。

1. 23 年度定員増の枠組み

近年の医学部定員増の 1・2 回目となった 20・21 年度の定員増は、医師が不足している地域や診療科への医師の確保とその養成が大きな目的となっている。

22 年度も同様の観点に立脚していることに変わりはないが、従来の方針を直接反映している「地域枠」に加え、「研究医枠」「歯学部定員振替枠」の 3 つの枠が設けられ、各大学の定員増はこれに応じて認められることとなった。

23 年度もこの枠組みを踏襲しており、それぞれの概要は以下のようになっている。

(1) 地域の医師確保の観点からの定員増(地域枠)

都道府県の「地域医療再生計画」に基づいて、地域の医師確保に係る奨学金を活用し、選抜枠を設ける大学の定員増を認めるもの。“選抜枠”とあるとおり、各大学は入試の段階で地域枠を設定する。

例えば、杏林大と東京慈恵会医科大は、東京都による地域枠として、それぞれ 5 人の定員増を申請している(杏林大は茨城県枠 1 人も)。この枠で入学した学生は、卒業までの間、都から奨学金が貸与される。学生は医師免許取得後、小児・周産期・救急・へき地医療のいずれかの領域で、都が指定する医療機関に 9 年間(初期臨床研修期間を含む)勤務することにより、奨学金の返還が免除される。

都道府県による奨学金の額はさまざまだが、月額 10~20 万円程度が目立つ。県外の大学と連携するケースや、出願資格を県内出身者に限定しているケースも見られる。

(2) 研究医養成のための定員増(研究医枠)

学部・大学院の一貫した特別コースや、奨学金を設けることなどを条件に、複数の大学と連携して研究医養成の拠点を形成しようとする大学の定員増を認めるもの。

例えば研究医枠で 1 人の定員増を申請している山口大では、鳥取大・広島大・高知大・徳島大と連携し、原則 4 年次以降の学生を対象に、「特別選抜先端学術プログラム」を開設。学部段階から研究に参加する、大学院まで一貫して見通したプログラムで、法医学等の研究医の養成を図る。

(3) 歯学部入学定員の削減を行う大学の特例

歯学部の入学定員を削減する大学について、減員数の範囲内で一定の医学部の定員増を認めるもの。近年歯学部では志願者の激減が大きな課題となっており、その対応策が背景にあると思われる。

2. 申請状況

<大学数・増員数>

23 年度は 26 大学から 77 人の申請が出ている。文科省はすでに 22 年 10 月に各大学に意向を確認しており、27 大学 87 人ほどの増員となる見通しだったが、申請段階では若干少なくなつた。また、過去 3 年と比べると小幅な増員に止まっている。

●医学部定員増 大学数・増員数の推移

- ・ 20 年度 ; 16 大学 168 人 (国立大 8 校 75 人、公立大 6 校 73 人、私立大 2 校 20 人)
- ・ 21 年度 ; 77 大学 693 人 (国立大 42 校 363 人、公立大 8 校 59 人、私立大 27 校 271 人)
- ・ 22 年度 ; 61 大学 360 人 (国立大 42 校 265 人、公立大 6 校 25 人、私立大 13 校 70 人)
- ・ 23 年度 ; 26 大学 77 人 (国立大 18 校 50 人、公立大 1 校 5 人、私立大 7 校 22 人)

※文科省資料より。

※国立大 42 校、公立大 8 校、私立大 29 校、計 79 大学中。

※23 年度は申請校数・人数。

23 年度は申請校数の減少に加え、増員の中心となる地域枠の 1 大学あたりの人数も減っている (22 年度平均 5.7 人→23 年度申請数平均 3.1 人)。

また、22 年度に定員増を行わなかった 18 大学 (公立大 2 校、私立大 16 校) のうち、23 年度に申請したのは東京慈恵会医科大のみだった。

<定員“120 人”超えの大学>

これまで医学部の収容定員は、大学設置基準により最大 720 人とされてきた。すなわち 1 学年分にあたる入学定員は最大 120 人となる。しかし 21 年 10 月に大学設置基準の改正が諮問・答申され、22 年度より 120 人を超えることが可能となった。これを受けて 22 年度には弘前大・山形大・新潟大・山梨大・三重大・岩手医科大 (以上、125 人)、旭川医科大・秋田大 (以上、122 人) の計 8 校が 120 人を超えた。

23 年度は、上記の中で再度申請をしたのは秋田大のみ (125 人)。このほかは群馬大 (123 人)・長崎大 (121 人) となっている。

<厚生労働省調査と地域枠>

医学部定員増は、20年度以降毎年度、何らかの政府方針を根拠に臨時的に行われてきた。23年度は『新成長戦略』（22年6月閣議決定）と『病院等における必要医師数実態調査』（同9月厚生労働省発表）を踏まえて認めるとされている。

しかし『実態調査』によって明らかになった、都道府県別の必要医師数調査と、今回の申請を重ねてみると、必ずしも倍率が高い（＝医師が足りていない）都道府県で地域枠が設定されたわけではないことがわかる。一方、こうした県では、地元の国立大が上述のようにすでに“120人”超えをしているところが多く、県外大学との連携による地域枠が必要になってこよう。

●「地域枠を設ける都道府県」と「現員医師数に対する必要医師数の倍率」

★＝23年度に大学と連携して地域枠を設定する都道府県。

	県名	倍率		県名	倍率		県名	倍率		県名	倍率		県名	倍率
	1 岩手県	1.40		11 滋賀県	1.22		21 福井県	1.18		31 広島県	1.15		41 石川県	1.11
	2 青森県	1.32		12 徳島県	1.22		22 宮崎県	1.18	★	32 山口県	1.14		42 愛知県	1.11
	3 山梨県	1.29		13 静岡県	1.21		23 沖縄県	1.18		33 北海道	1.13		43 福岡県	1.11
★	4 島根県	1.28		14 鹿児島県	1.21		24 栃木県	1.17	★	34 兵庫県	1.13	★	44 埼玉県	1.10
	5 大分県	1.26	★	15 秋田県	1.20		25 富山県	1.17		35 熊本県	1.13		45 神奈川県	1.10
	6 山形県	1.24		16 三重県	1.20		26 愛媛県	1.17	★	36 千葉県	1.12		46 大阪府	1.09
	7 岐阜県	1.24	★	17 群馬県	1.19		27 奈良県	1.16		37 京都府	1.12	★	47 東京都	1.08
★	8 高知県	1.24	★	18 鳥取県	1.19	★	28 宮城県	1.15		38 岡山県	1.12		平均	1.14
★	9 福島県	1.23		19 香川県	1.19	★	29 茨城県	1.15		39 佐賀県	1.12			
	10 新潟県	1.22	★	20 長野県	1.18		30 和歌山県	1.15	★	40 長崎県	1.12			

※厚生労働省「病院等における必要医師数実態調査の概要」より作成。

※倍率＝現員医師数に対する、「現員医師数＋必要求人医師数＋必要非求人医師数」の倍率。

3. 募集定員を拡大する入試方式

申請段階においては、一部の大学を除いて、各大学がどの入試方式で募集人員を拡大するかは不明だ。この時期の申請・認可であるため、当然、すでに公表されている募集要項には記載されていない。

前年22年度の状況を見てみると、国公立大では主に前期日程や、センター試験を課す推薦・AO入試、私立大では一般入試で、地域枠を設定・増員するなど、増加した分の定員を上乗せしている。23年度について、すでに予告を発表している大学を見てみると、東京医科歯科大・山口大・高知大・長崎大・鹿児島大では、前期日程で増員する模様だ。各大学の詳細は、12月後半の認可にあわせて、各大学のHP等で公表されていくと見られる。

受験生にとっては、冬休み→センター試験直前対策→センター試験本番→自己採点→国公立大出願→私立大入試本番、と、非常に慌しい時期になる。今回の申請校とその増員計画を見て、自分の出願校に関わるかどうか、あらかじめ判断しておくことが必要だ。

★旺文社では、各大学の入試方式別の募集人員状況がまとまり次第、Webサイト『パスナビ for Teachers』で紹介していく★

●23年度 医学部定員増 大学別申請概要

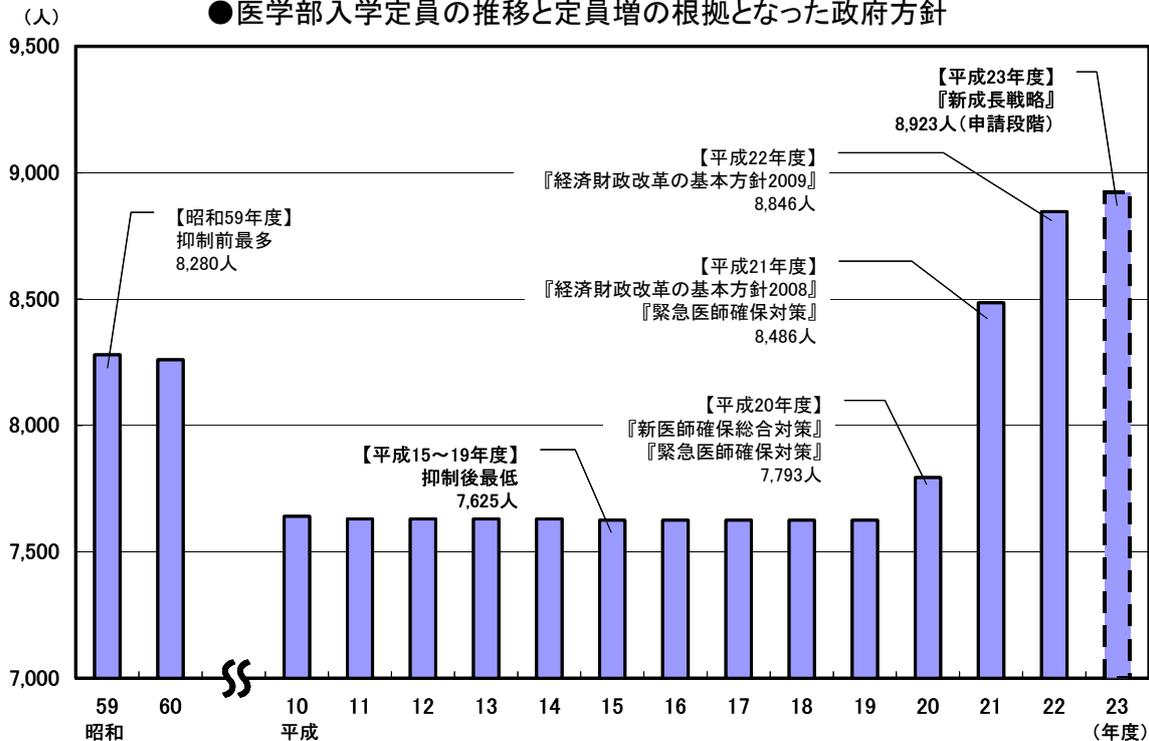
(単位:人)

大学	入学定員		地域枠 (都道府県)	研究医枠 (連携先)		歯学部 定員 振替枠	増員 数計
	(22年度)	(23年度)					
国立	東北大	119 → 120	1 宮城1				1
	秋田大	122 → 125	3 秋田3				3
	筑波大	110 → 113	2 茨城2	1			3
	群馬大	117 → 123	6 群馬6				6
	千葉大	115 → 120	5 千葉5				5
	東京医科歯科大	100 → 105				5	5
	信州大	113 → 115	2 長野2				2
	滋賀医科大	115 → 117			2 三重大,浜松医科大		2
	神戸大	108 → 110	2 兵庫2				2
	鳥取大	103 → 107	4 鳥取2,島根2				4
	島根大	110 → 112	2 島根2				2
	岡山大	117 → 120				3	3
	山口大	114 → 117	2 山口2		1 鳥取大,広島大,高知大,徳島大		3
	徳島大	112 → 114				2	2
	高知大	112 → 115	3 高知3				3
	九州大	110 → 111			1 熊本大,福岡大		1
	長崎大	120 → 121	1 長崎1				1
鹿児島大	115 → 117				2	2	
公立	福島県立医科大	105 → 110	5 福島5				5
私立	埼玉医科大	115 → 120	5 埼玉5				5
	杏林大	111 → 117	6 茨城1,東京5				6
	順天堂大	119 → 120			1 新潟大		1
	帝京大	112 → 113	1 千葉1				1
	東京医科大	115 → 117	2 茨城2				2
	東京慈恵会医科大	105 → 110	5 東京5				5
	日本医科大	112 → 114	2 千葉2				2
合計			59	6		12	77

※文科省資料より。

※私立大は募集人員の増を含む。東京医科大は募集定員上の増員。

●医学部入学定員の推移と定員増の根拠となった政府方針



※文科省資料より。

※入学定員には編入学定員を含む。私立大の入学定員は募集人員。